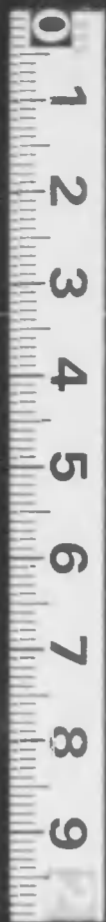


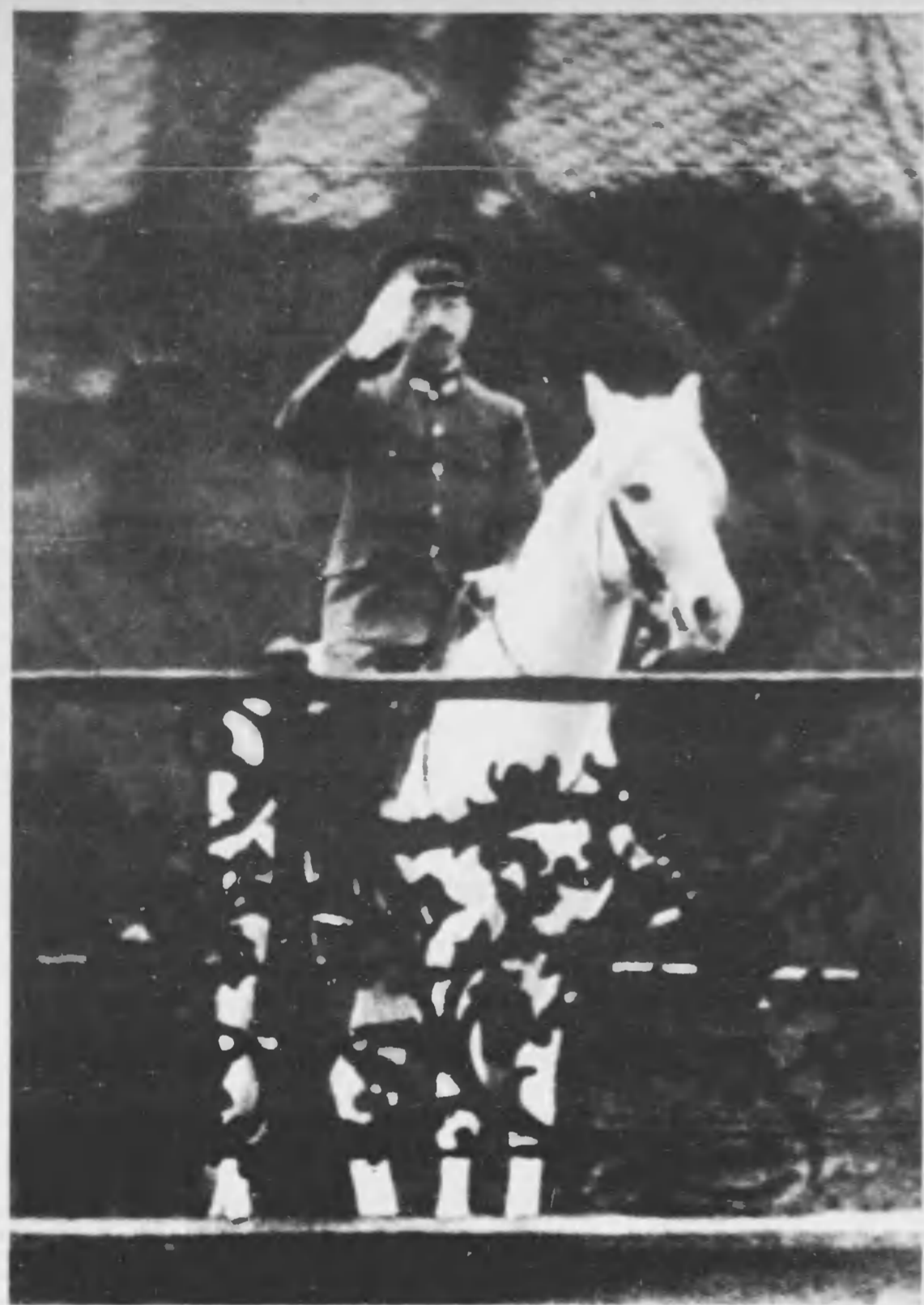
週寫
報眞

情報局編輯
三月四日 第二十七號



天皇陛下 民草の赤誠にこたへさせ給ふ 二月十八日 宮城前廣場

一億國民が歡喜と感激のうちに迎へた戦捷第一次祝賀の日、二月十八日
この日赤誠溢れる民草は未明から宮城二重橋前廣場を埋めつくし、聖壽萬歳のどよめきは終日大内山の嶽にこたへしたが、天皇陛下には皇軍の大戦果に天機殊の他御馳はしく、午後一時五十分御愛馬「白雪」に召させられ鐵橋中央に出御遊ばされ、蒼生の赤誠にこたへさせられて親しく御擧手の御會釋を賜つたのである。はからずも民草の赤誠を喜し給ふ至尊の御姿を拜し奉つた有難さ、身にあまる光榮と廣場を埋めるものはたゞ感激の涙にぬれて聖壽の萬歳を絶叫し、國歌を奉唱したのであつた
また次いで午後二時十分、皇后陛下並びに皇太子殿下には照宮、孝宮、順宮三内親王殿下と御同列にて橋上に御出まし遊ばされ、畏くも御手に日の丸の旗を打ち振らせられて蒼生の盡きせぬ歡呼をうけさせられたが、重なる光榮に會ふことを得た人々は今はたゞ戦ひ抜く決意をいよ／＼固めるのであつた



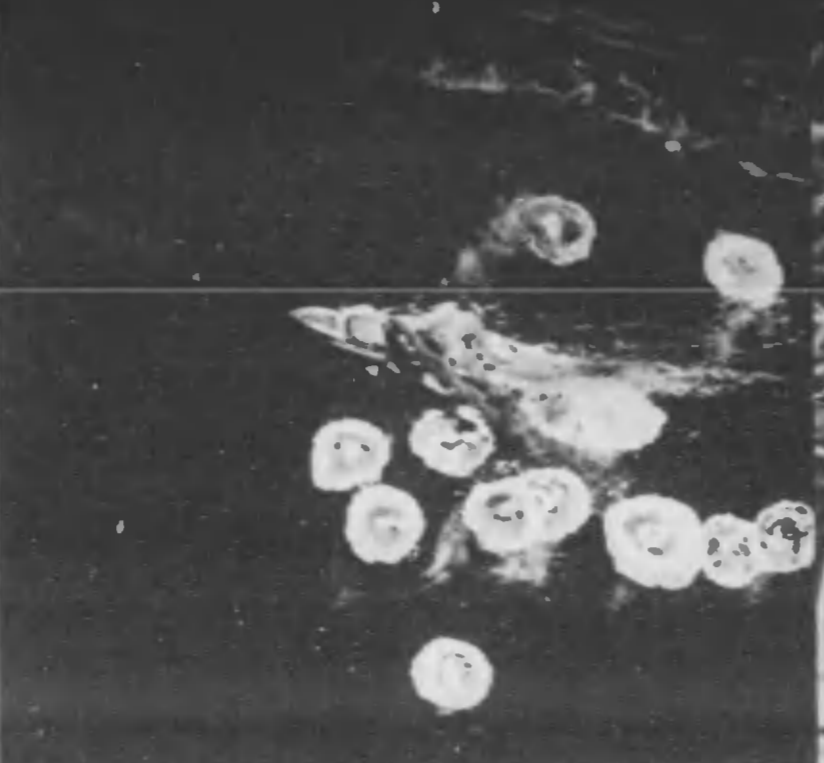
燃え上るセレター軍港。約二千年間東亞十億の民族を支配と押取に呻吟せしめた鐵鎖が断ち切られる日も間近かに、陥落直前のシンガポール島を見る



敵はシンガポール島からの脱出を企圖して、多数艦船をシンガポール港周辺に集結したが、悉くわが空軍の餌食となつて、シンケルト以上の惨敗を喫した



一戦、一戦、必中の巨弾が敵陣を破壊してゆく。イギリスが世界に誇つた十八吋要塞砲に挑むわが砲兵部隊の活躍



★ ジョホール水道も遂に越えた上陸以來六十餘日、凡ゆる困難を克服してシンガポール島に上陸第一歩を印したのだ。最後の止めを刺すべく息を揃はる〇〇部隊

★ シンガポールの陥落と共に老英帝國の再興はひとときは高く鳴り響く。しかも當のシンガポール島は二月十七日その名も昭南島と生れ更り、今後名實共に南方共榮圏の一大據點として大東亞戰完遂に不動の態勢を整へることになつた

★ わが強力な軍政の下、昭南市の復興よりは全く目覚ましい。完全な治安の維持はいふまでもないが、瓦斯水道、電燈の復舊は忽ちにして成り、軍の統制下に市場の開設、各官廳の事務の開始、銀行商店の開業等と、昭南市は戦前の繁榮を思はせる明朗さを急速調にとりもどしつゝある

★ 南洋、また陥落後僅か五日にしてジョホールバル昭南市間二十六・四キロの鐵路は完全に復舊した、即

二月十五日 シンガポールの陥落

ポールの陥落

★ ちわが鐵道部隊は不眠不休の努力によつて、急速にコースウエー橋の修理に成功、二月二十日早くも昭南市を出発した處女列車は逞しい復興譚を奏でながらジョホール水道を突破して遂にジョホールバル驛に滑り込んだのであるが、これによつてマレー半島を縦貫長驅バンコクに至る三千キロの鐵道は全部開通を見るに至つたのである

★ わが鐵道部隊は不眠不休の努力によつて、急速にコースウエー橋の修理に成功、二月二十日早くも昭南市を出発した處女列車は逞しい復興譚を奏でながらジョホール水道を突破して遂にジョホールバル驛に滑り込んだのであるが、これによつてマレー半島を縦貫長驅バンコクに至る三千キロの鐵道は全部開通を見るに至つたのである

撮影 同盟通信社 日本映画社 東京司馬良野



日五十月二
ナ落陥ルーボガンシ

戦意を失つて手を
挙げる英本國兵の
群 シンガポ
ル島政略に於い
てわが陸軍部隊が
獲得した俘虜の數
は、軍司令官パー
シバル中将以下約
七萬三千名である



マレー方面帝國陸軍部隊は本十五日午後七時五十分シンガポール島要
塞の敵を以て無條件降伏せしめたり。あゝ忘れ得ぬ感涙、敵は白旗
を掲げてわが軍門に降つた。白旗持つは、ハービギン代將、英族持つ
はトランス代將、右端はパーシバル中将

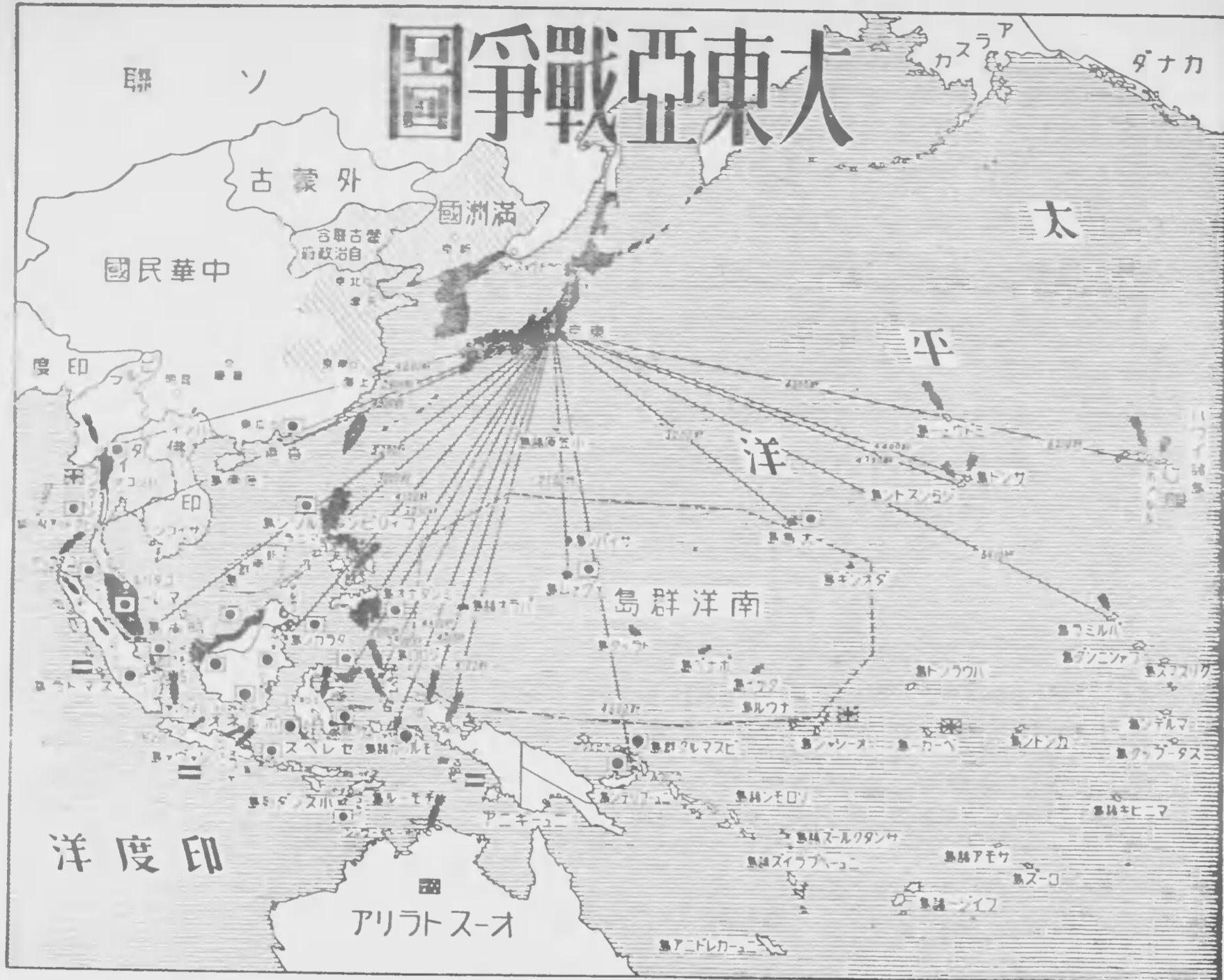
捕虜不降を盼つたシンガポール要塞もあつてなく潰れ去つた。大東亞
戦争史に残る不滅の一頁。市外フアード命前跡に於ける降服宣讀に
望む山下最高指揮官

ラッフルスの像は今も空し。敵種の身をいとも存氣に打突つてゐる俘
虜の姿にイギリスの將來が暗示されてゐる



征敵千百キロ、ジャングルも嵐地も、そして灼熱の太陽も、今日の目
を目標して克服して来たのだ。萬歳！萬歳！





日五十月二
+ 落陥ルーボガンジ

昨日に翌つ、南連
日本の一大據点と
なつた昭南島だ。
わが空の精銳もこ
こを基地として蘭
印も印度洋をもそ
の翼下に制するの
ことなるのだ。
停滯の印度兵も
交つて飛行場の機
備

ラッパルスがジ
ホール王からシン
ガポール島を奪取
してから約百二十
年。あゝ今、皇軍
部隊は堂々ラッパ
ルス陣地を行進し
て、シンガポール
島が東亞に返り咲
く日が遂に來たの
だ。



大東亞戦争日誌

二月一日

十五日 ●未明、陸海軍は緊密なる協同の下にバンカ島ムントク附近の敵前上陸に成功。夕刻、同島東岸の要衝バンカレピナンを占領。●南方方面帝國陸軍最高指揮官は陸軍大將伯耆守壽一、同徳義謀長に陸軍中將塚田攻なる旨發表。

十七日 ●強力なる陸軍新鋭部隊は十五日早朝ムシ河を越江、さきにバレンバン飛行場を占領せる陸軍落下傘部隊と協同して本日南部スマトラ島の要衝バレンバンを完全占領。●海空軍はチモール島ターバンを空襲。敵砲臺ならびに兵舎倉庫群二十餘を破壊。同方面所在の敵艦三千トシ一撃を撃沈。

十八日 ●海空軍はスマラバヤ大空襲を敢行。米駆逐艦十三隻を撃沈。同港潜伏中の敵駆逐艦五隻に命中弾を浴びせ大損害を與ふ。

十九日 ●スマトラ、ジャバア方面を制する中の陸空軍はバイテンツル飛行場(バタヴィア南方)を強襲。米駆逐艦二十七隻を撃沈。●更に陸空軍は午後五時大襲撃してバンドン西飛行場を佔領。米駆逐艦十九隻を撃沈。●時海軍は露密なる協同の下にバリ島南部の要地デンパサルを完全占領。●海空軍は遠東本北岸、敵最大級の海空軍基地ポートダーウィンに對し大規模攻撃を敢行。所在敵艦空兵力ならびに在港敵艦艇の大半を更らに陸軍重砲隊の砲撃で破壊。●その結果、(一)艦隊司令部所屬敵艦全部(二十六艘)、(二)空軍機六千トシ級特設航空母艦一艘、(三)艦隊司令部所屬敵艦九隻(二大破)、(三)機隊又は炎上せる陸上施設、東西飛行場格納庫を撃破。

二十日 ●未明、陸海軍は緊密なる協同のもとにチモール島クーバ上陸を敢行。なほ帝國軍の作戦がポルトガル領に及ぶの止むなきに至つたので、政府は本作戦の目的が所在の英軍軍兵力を駆逐するにあり、帝國政府が中立を維持するに兵力を撤收せんとするものなる旨聲明。●海軍水雷隊隊所屬(一)駆逐艦三隻より成る砲火隊司令部隊に連動、午前零時四十分砲火を開き、敵艦十分にして敵駆逐艦二隻を撃沈。他の一隻を大破、更に逃走を企てる敵駆逐艦を急追。午前一時十五分に再び再発。これと交戦。また分隊行動中の同隊駆逐艦二隻も急遽南下し來り、この敵を攻撃したが、敵はわが砲雷艇により損害を受け夜間にまぎれて逃走。

二十一日 ●正午、マレー方面陸軍のシンガポール島要路攻撃戦に於ける主なる戦果發表。(一)俘虜軍司令官以下總數約七方三千人。●市内主要ホテルに收容中の各種火砲約三百門、機關銃二千挺以上、小銃約五万挺、戦車、裝甲車を含む約二百輛、各種自動車約一万臺、自動機銃約二百臺、彈藥、大威力砲艇のほかに極めて多数、船舶一萬トシ級汽船一隻、五千トシ級汽船三隻、その他大小舟艇多数。

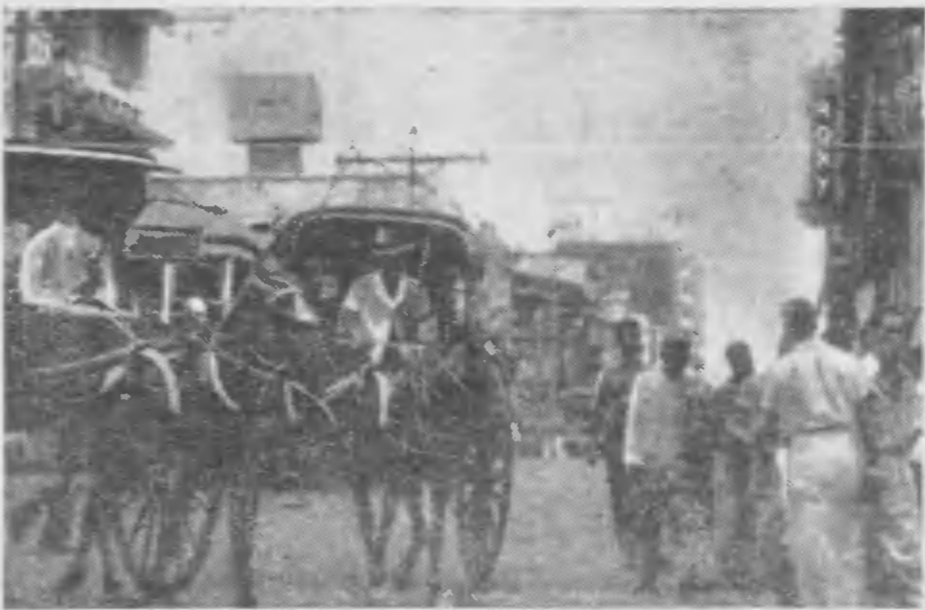
二十二日 ●スマトラ、ジャバア、ルマ各方面に航空襲撃戦を續行中の陸空軍は二十一日、二十二日の兩日に亘り、ジャバア島バイテンツルダカリジャチ、バンドン、シバ、領土に對し、バタヴィア飛行場を大規模攻撃し、米、英、露、露、露、露を撃破。



大マニラ市長の肖像。市長官舎の重厚な建築様式が、その権威を物語っている。

息吹くマニラ

大マニラ市長の肖像。市長官舎の重厚な建築様式が、その権威を物語っている。市長官舎の重厚な建築様式が、その権威を物語っている。市長官舎の重厚な建築様式が、その権威を物語っている。



マニラの銀座エマコルタ街、市電も動き出し、カカマカカと馬車も再び見られる。



新聞が早くも機能を回復して朝々の賑わい。早稲とともに見られる。



大型バスから小型自動車に至るまで敵の遺棄した自動車の数はおびただしい。持主の申出を待つ兵隊さんとその整理には一苦労だ。

撮影 日本映画社



中心に皇軍の協力によって衛生の思入をし、邦人たちは日本人會本部を中心として生活再建の第一歩を踏み出した。

マニラの印象

石坂洋次郎

マニラ市に入つて四五日、その間の見聞によつて自分に植まつてきた第一印象はいかに

なつてしまつてゐるやうだが、われ日本人として、これをそのまゝに拱手傍観して居るべきではない。彼等の中に眠つてゐる精神、且つ勤勉なアジア民族の意識を呼び醒まし、東洋の同胞として、相協力して白人の侵略に抵抗し得るやうな民族を育て上げてやらなければならない。

フィリピン雑感

今日 日出海

我々報道記者がマニラに入城して以来一週間にわたる。街並は無血入城だけに静かであつた。海軍通りのドライブウェイには、夕方ベンチに、鬱鬱に散策者のどかな姿を見ることがある。考へてみれば散策者としてゐる身分ではない筈だ。米國依存の一端道を歩いて来た彼等の舞臺、政府文化、様々の分野に於て、のさな方策があるのだらうか。食糧難、生活難が既に眼前に迫つてゐるではないか。誰かに永い健康生活を失つてゐるのではないからうか。私はマニラに来る道で多くの町や部落を通り宿泊した。そこそこ小さな小さな町にも、美容院を見たが、然し本屋といふものがなかつた。化粧品屋の店頭には少しばかり米國の三文字が並んでゐるのを認めた。だけに過ぎなかつた。米國の愚民政策に彼等は巧みに乗せられて、知性を失ひ、求知心を喪失してしまつた。山間に逃げのびて、家に残つた家には婦人の衣装が力に意識されるのである。

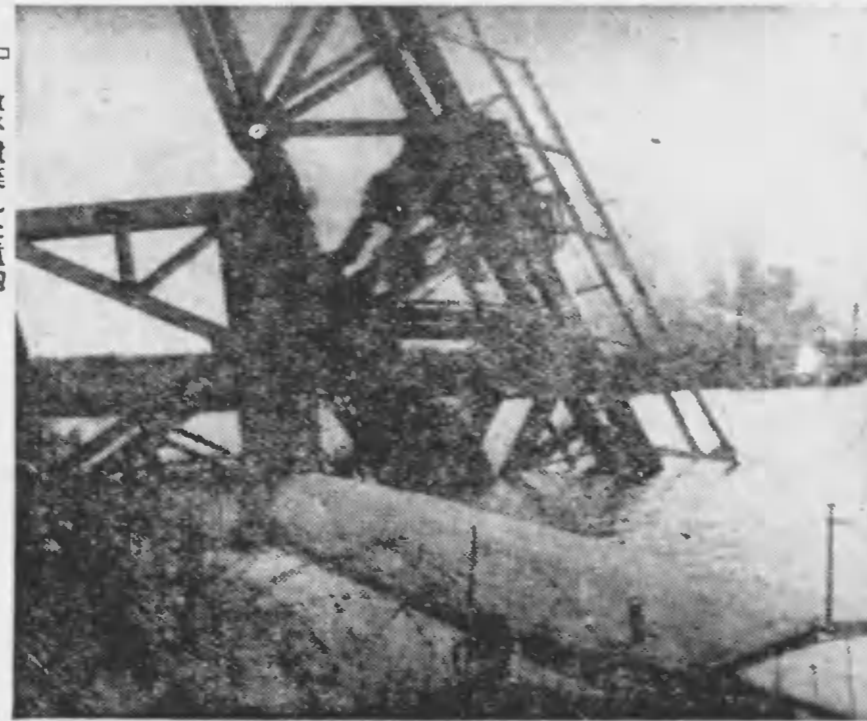
帝國軍艦旗翩翩たる

昭南島セレター軍港

堂々とセレター軍港に入る海軍陸戦隊



軍港鎮守所の屋上で敵旗の高さを叫ぶ海軍部隊
わが海軍にあつて水中にメリ込んできた内のクレイン



敵が遺棄した重砲



わが海軍部隊はイギリスが東洋最大の軍港と評つたセレターを二月十四日完全に占領した。

セレター軍港はイギリス東洋艦隊の根據地であつて、イギリスがワシントン會議で日英同盟を廢棄してから總工費二千三百万ポンドの巨費を投じて築工、いまから四年前に竣工式をあげた。シマボレー全島の要塞化と相俟つて、この軍港あれば東洋におけるイギリスの地位は永久に不動だ。日本何するものぞと豪語したのも今は空しく、セレター軍港鎮守府上にはユニオンジャックに代つて帝國軍艦旗が翻るとはためいてゐる。五万トンの戦艦を収容し、驅逐艦九隻を一時に入渠できると誇つた浮ドックの施設まで持つた同軍港も皇軍に對しては何ら威力を發揮することはできなかつたが、昭南島として更生したわが軍港として、早くも西南太平洋を睨み、印度洋の咽喉元を扼し堂々と帝國海軍の根據地として一威風を加へたのである。

捕獲を終り、セレター軍港は完全にわが手に歸した。撮影 日野海軍報道班

ラングーン



モールメン、マルタパンの軍隊を抜いて破竹の進撃を続けるわが軍は、二月十八日ビルマ河を渡河し、双向敵軍に接戦の途なかからしめ、一路ラングーンへと進撃を続けてゐる。向ふ敵軍はわが痛撃の前には、むろんラングーンに英陣も日ならずして崩れ去るであらう。そして全ビルマ平定の戦いはいよいよ一層となつてゆくことであらう。この機会にビルマの首都ラングーンに暫し目を留めてみよう。

ラングーンといへば、何よりもビルマ・ルートの基點としてわれわれにとつては心憎い所であつた。日本をあてつけに、採得物資を満載した米英の船舶が太平洋や印度洋を我が物顔に航行して、ラングーンに荷揚げされ、こゝからラシオ及びミチナに至る狭軌鐵道、或いはラシオに至る自動車路、またはパーモに至る水路の三ルートによつて國境に達し、重慶へと送られたのであつた。蔣政権が香港や佛印からのルートをいち早く失つても不敵な強がりをいふことのできたのは、實際このビルマ・ルートがあつて米英を頼みにできたからであつた。

がしかし、東亞の情勢は今日

ラングーンはイラワディ河の下流に展開するデルタ地帯の南部にあつて、イラワディ河の分流ラングーン河の北岸に沿つた大都市である。海岸から二十一哩餘り離れてゐるが、印度のカルカッタ、ボンベイに続く印度洋の商港である。こゝから輸出される主なものは、いほゆるラングーン米、木材、麻、石油で、また主な輸入品は石炭、綿製品、金属、絹、機械、砂糖等であつた。もしラングーンにして附著せんか、既にメ



ラングーン市の人口は一九四一年三月の國勢調査では總人口約五十万、うち印度人は最も多くて約二十二万六千六百、續いてビルマ族十六万六千、ビルマ族以外のビルマ國人九千五百、支那人四万六千五百となつてゐる。従つてラングーンはビルマ人の町といふよりはむしろ印度人の町といふ感じが深い。

由來、以夷制夷の好策に長ずるイギリス人は、こゝでも印度人とビルマ人との反目の上に自己の安定をはかつてきたが、かゝる非道に天罰の加へられないはずはなく、今や日一日と皇軍の鐵蹄の響きが近づきにつれ、彼等の狼狽ぶりはその極に達してゐる模様である。傳へられるウー・ソー首相逮捕の如きも、もし事實とすれば、如何に彼等があつてふたぎなきがらも最後まで善悪を覆はうとしてゐるかを示すもので、その心情の陋劣さはむしろあはれむべきものがある。

だが最早、何としても彼等の命数は盡きた。信仰に生きるビルマ人は、恐らくこれを因果報として心中快哉を叫んでゐるにちがひない。そして、東條内閣總理大臣が議會で明言したやうに『ビルマ人のビルマ』を許容するわが方針に感泣し、皇軍のラングーン入城を待ち焦れてゐることだらう。



↑ 因襲の佛式の土葬

↑ 待たせられてゐる佛陀



ゴダ(佛塔)の境内の一部はもちろん、いたるところ佛域を荒して要塞化してゐると傳へられる。このゴダの東方が美しいローヤル湖で、このあたり一帯巨大な樹木が鬱蒼として一大公園をなし、雲表に輝く黄金塔と相和して絶妙豪華な眺めをなしてゐるといふことである。

なほイギリス人が東洋一と誇稱し、今次のビルマ作戦以來わが軍艦の好餌となつてゐるミンガラドン飛行場は、市の北方十五哩の地點にある。

ブザンダウング入江岸の精米工場

ラングーン市の人口は一九四一年三月の國勢調査では總人口約五十万、うち印度人は最も多くて約二十二万六千六百、續いてビルマ族十六万六千、ビルマ族以外のビルマ國人九千五百、支那人四万六千五百となつてゐる。従つてラングーンはビルマ人の町といふよりはむしろ印度人の町といふ感じが深い。

由來、以夷制夷の好策に長ずるイギリス人は、こゝでも印度人とビルマ人との反目の上に自己の安定をはかつてきたが、かゝる非道に天罰の加へられないはずはなく、今や日一日と皇軍の鐵蹄の響きが近づきにつれ、彼等の狼狽ぶりはその極に達してゐる模様である。傳へられるウー・ソー首相逮捕の如きも、もし事實とすれば、如何に彼等があつてふたぎなきがらも最後まで善悪を覆はうとしてゐるかを示すもので、その心情の陋劣さはむしろあはれむべきものがある。

だが最早、何としても彼等の命数は盡きた。信仰に生きるビルマ人は、恐らくこれを因果報として心中快哉を叫んでゐるにちがひない。そして、東條内閣總理大臣が議會で明言したやうに『ビルマ人のビルマ』を許容するわが方針に感泣し、皇軍のラングーン入城を待ち焦れてゐることだらう。



ルーモ子

帝國陸軍第五師団は二月二十日未明、チモール島のポルトガル領に属するデリーに、蘭領に属するクーパーンにそれぞれ、敵前上陸を敢行、こゝに策動してゐた英蘭軍を徹底的に撃破、戦果を擴大してゐる。チモール島はスリダグ島の東端に位置する四角の島で、その面積は蘭印の要港ステバヤから約千二百キロ、洋洲の要港ポートダーウィンから約千



チモールの街景

か八百五十キロ、昭南島から約二千キロの距離にあり、英、蘭、澳を結ぶ敵性紐帯の結目にあつた。



戦場を二はるオセアニア人の

今、大戦争の勃発するや、英蘭軍はポルトガル領チモール總督の強硬な抗議にもかかわらず、中立國たる立場を無視して侵入以來、占據策謀してゐたのであつた。この地にわが武力の及んだことは、全蘭印はもとより洋洲の咽喉元を扼すやうなもので、北部洋洲最大の要港ポートダーウィンの爆撃とともに、今や洋洲の狼狽はその様



我が軍が敵前上陸を敢行したポルトガル領デリー市

空路が開かれ、川西式四發大飛行艇が本土を飛越ること六千數百キロ、赤道をとび越えて親善の翼を伸ばしてゐたことはまだ記憶に新しい。また蘭領クーパーンはチモール島唯一の飛行場があり、英蘭軍の重大航空基地であつた。

落下傘部隊は

このやうに育てられた

陸軍

二月十四日、スマトラ島ハレンバン油田地方の上空に忽然と降つて湧いたわが陸軍落下傘部隊は、敵の狼狽する中を軍の如く降下し、接地点とともに忽ちにして附近一帯の敵陣を蹂躪し去つた。この思はざる奇襲に、蘭印の要島スマトラは一撃に心臓部を制せられ、米英蘭必死の抵抗線クンダ列島の陣地は先づこ

〇〇番地の朝は霞と明けました
日頃の所に物見せる日だ
一陣の強風に飛び散つた薄花の如く
今敵陣の真只中に突入する



たれらて育にうやのこ は 隊 部 傘 下 落



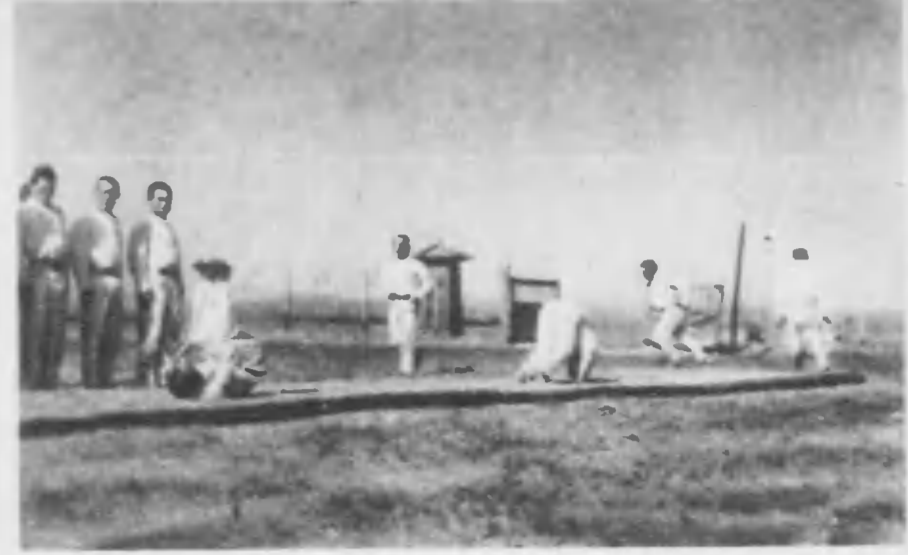
と、隊、傘は將に開からとする



激しい準備訓練を経ていよいよ基本訓練に移る



接地後傘からの離脱訓練



腹を柔かにする基本訓練



落下傘のたゝみ方を習ふ



機から離れる訓練



カンと強い衝撃、接地だ。ひきすられる體をすばやく戦闘態勢に直さねばならない



アッ！機から體が飛び出した



降下傘を利用して降下の訓練

練訓の下降傘下落

陸軍航空本部員 野中俊雄
先づ朝から晩まで體操また體操、身體がゴム球のやうに弾力あるものになることが必要である。身體が出来ると共に、精神も極めて爽快になる。健全なる精神は健全なる身體に宿るとは、良くぞ言つたものだ。接地の際にドスンと落ちては衝撃が強い。コロリと落とすと衝撃の力が身體中に散つて弱くなる。體操で十分鍛へた上でコロリの稽古である。また飛行機から跳びだす要領が拙くは開く傘も開くまい。模型を作つて跳び出しの稽古である。踏み切りを強く、身體を伸ばして、大は傘を身體に結びつける縛帯をつけて、プラッコの稽古である。ブラッコ揺つたトタンに吊つてあるのが脱れる

自分の生命を托す落下傘である。どんなに作られ、どんなにして開くものか、良く知つて置く必要がある。自分で使ふ落下傘は、自分で金入りに懸む。いよいよ飛行機に乗つて降下である。初めての時は、國民學校の生徒が遠足に連れて行つてもらふやうな心のとまめきを禁じ得ない。準備を整へて飛行機の入口に身構へする。教官に「よし」と肩をたたくかれて、踏み切りも強く、パツと跳び出した。パサツと傘が開いた。開いた傘を見上げると、嘘、何と美しいではないか。さうだ。この美しいさを降下傘降下部隊の精神である。純忠至誠の表徴である。ヤがて土地に近づくと、さあ、身構へ。さあ接地。コロリと跳んだのが早い、パツと立つたのが早いか。立つのが早いか、縛帯を脱したのが早いか。と思つたら早速『報告』〇〇伍長降下終り。異状なし。『よし』報告するのもし早い。またすぐにも降下して見たい。しかし、他の者が羨しさに待つてゐる



糸が切れてドツと體が落ちる

撮影 陸軍航空本部

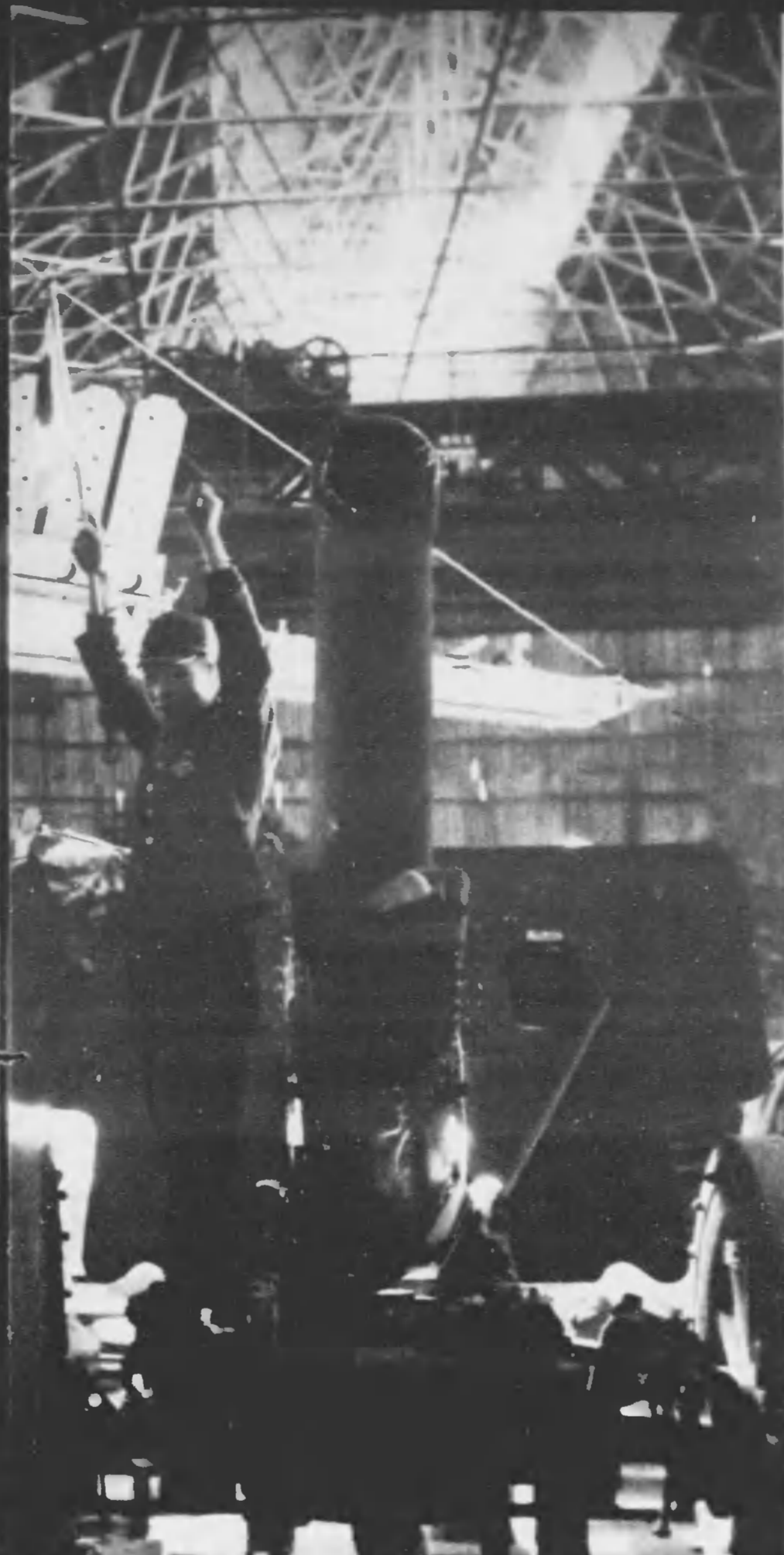
億の萬の唱合歳

押へに押へてきた戦捷の歌びであった。み民われあゝ生けるしるしあり。今日、この日、この時こそ待ちに待てりと、一億國民の叫ぶ萬歳は天地をどよめかせて轟き渡つたのだ。高く、高く

この戦捷、大戦買に當り進んで聖壽の萬歳を壽き奉ります。天地も搖げとばか御唱和願ひませう。二月十八日正午東條内閣總理大臣は一億國民の萬歳に聲高々と首領をとつた



たうとうやつて呉れたな、俺達の作つたあの砲で、あの弾丸で。○兵器廠に揮發する萬歳



帝都では日比谷公園に戦捷祝賀の國民大會



この日、この時、大阪市心齋橋前に掲がる萬歳唱和



聖峯に對する萬歳の聲、靜岡縣御殿場町



丹那はんも番頭はんも、お店揃つて勝開あける大阪市船場の商店（撮影 小石 浩）



「うわーん、こんどはおいらの番だ」
杉 桓夫



腹話術師の悲鳴
榎本 映一

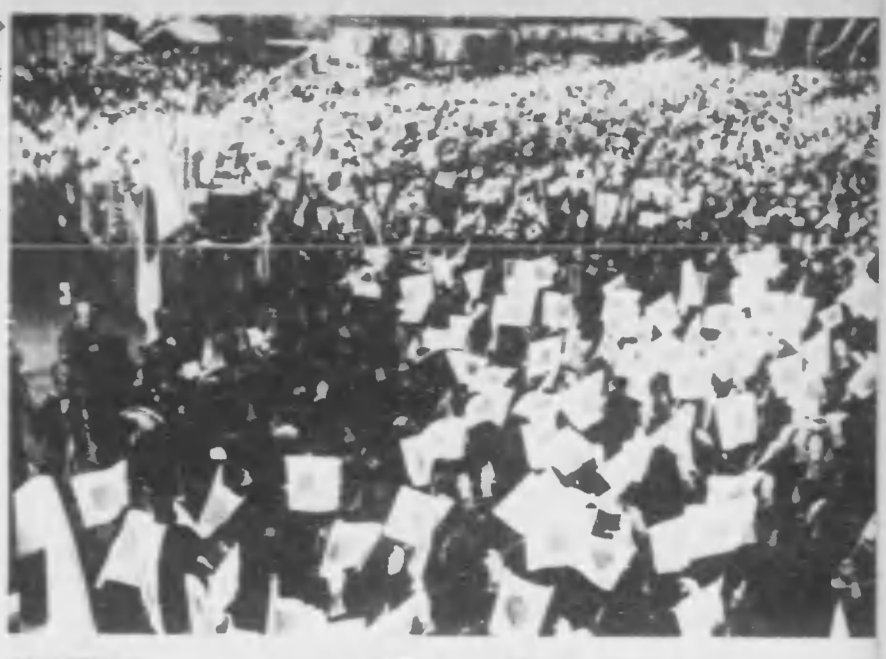
火の手は迫る
赤熊 猛

爐邊の火は消えたり
小泉 繁樹



「旅もきれよ、明後もきれよ」と、二、長野市（敬賀）の市民が市民大会で（撮影 矢野時陸郎）

「遙か南洋まで、負けと愛知三谷酒の漁船上でも」（撮影 榎本清一）



「さあ、お盆だよお盆さん」永生きした甲斐のあつた喜び。大阪府下にて（撮影 中藤 敦）



「お盆だよお盆さん」永生きした甲斐のあつた喜び。大阪府下にて（撮影 中藤 敦）

生誕の地を
大東亞戦争
漫遊記

★表紙
攻城七日にしてシンガポール遂に陥つ
「おい、こゝろに早く陥つとは思はなかつたな」
内地でも皆皆「アたらしたあ」
必しまで分たシンガポールだ。コッパル上陸戦でシンガポールを陥つて、敵つた今、はじき戦友の顔に涙を流し、目に涙を流す。あ、シンガポール遂に陥つ
エンパイアドックで萬歳を絶叫する。〇部隊勇士

情報局は去る二月二十一日より、舊帝制から三宅坂の舊憲法本部に移転しました
東京市豊町区永田町一ノ一

情報局は去る二月二十一日より、舊帝制から三宅坂の舊憲法本部に移転しました
東京市豊町区永田町一ノ一

時戰國一赤

券債國報 券債蓄貯



賣出 二月二十一日 止 三月二十日

円五・円十 枚一

蓄貯謝感争戰亞東大

行銀業勸本日・省藏大

東京通報 昭和十七年三月二十日 第三千四百四十四号 印刷部發行 第三千四百四十四号

内閣印刷局印刷發行

(列情報通1-A4格紙定額はより大の書本)